

視 察 報 告 書

報 告 者 氏 名 高野 とも ⑩

1、委員会名 都市建設委員会

2、期間 平成 21 年 10 月 27 日（火）～28 日（水）

3、視察都市等及び視察項目

（1）仙 台 市 仙台市の景観形成と仙台市「杜の都」景観計画について
都市づくりにおけるシティセールスについて

（2）那須烏山市 那須烏山市工場用地等登録制度について

4、所感等

（1）について

まず、「杜の都」というキャッチフレーズが全国的に有名であること、歴史的に緑や川など自然を守ろうという意識が行政だけでなく市民全体に培われてきたことに、強い印象を持った。まさに、「ブランド」であり、流山市の「都心に一番近い森の街」は遠く及ばないと感じた。

「シティセールス戦略」の 4 つの目標（①交流人口の増加、②成長分野産業の誘致・対内投資の推進、③高次な技術やノウハウの蓄積、④人的資源の獲得・活用）と、6 つの戦略（①ブランド、②産業誘致／経済交流、③観光集客、④コンベンション集客、⑤学術／文化交流、⑥スポーツ交流）は、本市と比べれば総合的であり、都市固有のもの、眠っているもの、他と違う個性、相手が何を求めているかを明確にするなどを意識していることが特徴的である。緑がきれいだけではだめと、スポーツやジャズなど取り入れ、元気なイメージも大切にしている。戦略プランを外部委託するとどこでも同じになってしまうと、関係庁内会議で作成したところにも、行政の力の入れようが感じられる。

しかし、事業の性格上こうなるのかもしれないが、ほとんどが外に向けた施策になっている。すでに観光地としても経済・産業・学術都市としても完成されている印象があるが、同じように 4 つの目標の②対内投資の推進が図られているのか、もっと知りたかった。

景観形成については、高いケヤキ並木が続く定禅寺通りも実際に歩いて、「杜の都」の中心を体験することができた。光のページェントやジャズフェスティバルなども含めて、多くの人の参加が力になっているようだ。中心部は条例に沿って整然としていたが、まち全体にはどのように条例と計画の実効性が保たれているのか、もう少し見てみたかった。

条例から外れる極端なものを排除していくことから、地区ごとにどんなものをめざしていくのか、具体的な提案の探求が課題だとのことだったが、一層の住民参加が求められるだろう。

100 万人都市の仙台市は、一般会計が 4,143 億円余りで 9,500 人余りの市職員がおり、シティセールス担当は「企画市民局総合政策部交流政策課」。課員は 13 名で、直接の担当者は 5 名とのこと。規模も本市と全く違う大都市である。歴史的な面、環境などを含め、学んできたことが本市ですぐ生かせるとは残念ながら思えない。さらに、そもそも「ブラ

ンド」を全国・世界に発信し、売り込む「シティセールス」という考え方に抵抗を感じる。仙台市の状況はあまりつかめなかったが、地方自治体の最大の役割である、「住民の暮らしを守る」という仕事をしっかりとやってこそ、本当の「ブランド」になるのではないか。ただ、さまざまな力の発揮を束ねる行政の意気込みと、完成されたまちづくりには感銘を受けた。

（２）について

低い山々の間にまばらな住宅が見えるのどかな風景の那須烏山市は、都会の忙しい時間がうそのようなゆったりとしたまちだった。しかし、過疎化や隣のキリンビール栃木工場をはじめとした企業の撤退などが、まちの危機感を引き起こしている。

登録制度は、この状態を脱するための重要な施策のようだ。土地 200 ㎡以上、建物 100 ㎡以上と、栃木県で実施している制度より低い対象にし、市と同時に県制度にも登録をしている。誘致企業には、3 年間固定資産税分を援助する。定住政策とセットで、何とかまちに来てほしいと力を入れている状況はよくわかった。「産業廃棄物処理場以外は何でもいい」という姿勢で、民間調査会社にも依頼しつつ、職員が訪問や電話で働きかけているが、制度を始めてから 3 年で実績はまだない。

雇用の場の確保という観点で、企業誘致の促進をという考え方は理解できないわけではないが、環境から考えると、企業・工場ばかりでいいのかという疑問を持った。もっと環境を生かした提案を打ち出した方がいいのではと思った。例えば、全寮制の学校や社会福祉法人の施設、農業や林業などかつて主流だった産業を基本に据えたものなどを主流にしてもいいのではないか。また、2 か所ある温泉や、すばらしい祭り（だしを展示した山あげ会館を見せていただいた）を生かした観光など、さらにまちを光らせる要素はあると感じた。いずれも、市民の声をよく聞いてすすめてほしい。また、固定資産税相当額の奨励金や、埋蔵文化財発掘調査の経費負担など、限られた予算の中で市民の暮らしにまわす予算への影響が心配される。

定住促進という面では、転入者だけでなく在住者にも奨励金を出していることは評価できるし、小学 6 年までの医療費助成や小学 6 年までの学童保育、第 2 子以降の減税など、子育て施策に力をいれていることも、大いに学べることである。

那須烏山市の視察については、本市がすすめている T X 駅前の「用地登録制度」と同様の制度を持つ行政ということで、私が提案したものだが、数か所あった候補地のうち仙台市とセットで行かれる場所だったために決定した経緯がある。しかし、本市と比べて条件が大きく異なったことは否めない。今後、本市と比較的条件が似ている行政も視察し、さらに学びたいと思う。